

(第二病院内科) 川内喜代隆・小笠原寿恵・安山雅子・大川真一郎

11. HLA-DR4アレルの進化から推定されるインスリン  
自己免疫症候群(平田病)の起源と分布

(糖尿病センター) 内瀧安子・大森安恵・岩本安彦

座長 山内克巳(消化器内科)

12. ベーチェット病のぶどう膜炎患者血清の可溶性 Fas および可溶性 Fas リガンド,  
末梢血単核球の Fas 発現に関する検討

(第二病院眼科) 小笠原勝則・末丸純子・助川祥一・  
氏原 弘・稲葉午朗・宮永嘉隆

13. 新しい T 細胞活性化マーカー, H4分子を表現する  
胸腺 T 細胞サブポピュレーションの解析

(<sup>1</sup>微生物学免疫学, <sup>2</sup>Univ. Torino, <sup>3</sup>歯科口腔外科)  
八木淳二<sup>1</sup>・Umberto Dianzani<sup>2</sup>・加藤秀人<sup>1</sup>・  
桂田友子<sup>1</sup>・岡本俊宏<sup>3</sup>・内山竹彦<sup>1</sup>

座長 今西健一(微生物学免疫学)

14. 温度応答性培養皿の開発とミクログリア細胞初代培養への応用

(<sup>1</sup>医用工学研究施設, <sup>2</sup>国立精神神経センター) 大和雅之<sup>1</sup>・高坂新一<sup>2</sup>・  
菊池明彦<sup>1</sup>・桜井靖久<sup>1</sup>・岡野光夫<sup>1</sup>

15. 免疫吸着療法における白血球の変動

(神経内科) 太田宏平・清水優子・植田美加・  
秋山尚子・岩田 誠

## 1. CD40分子の刺激による Dendritic Cell (DC) の抗腫瘍効果

(第二病院外科) 横溝 肇・  
加藤博之・遠藤俊吾・吉松和彦・  
橋本雅彦・小川健治・梶原哲郎

〔目的〕 dendritic cell (DC) には強力な抗原提示能と腫瘍免疫の誘導の効果が認められている。また DC の CD40分子を刺激することにより、IL-12の産生の増加や costimulatory 分子の発現の増加が認められる。そこで CD40分子を刺激した DC を用い、抗腫瘍効果の増強を試みた。

〔方法〕 5週齢 Balb/c マウスおよび colon26 (C26) を用いた。CD40分子を刺激した DC の抗腫瘍効果を以下の3群を用いて検討した。A群: 不活化 C26と抗マウス CD40抗体投与した DC を混じ皮下接種。B群: 不活性 C26と DC を混じ皮下接種。C群: 不活化 C26を皮下接種。3群とも day 0, 7, 14に計3回大腿皮下に接種した。その3群に day 21に C26を対側の大腿皮下に移植した。生着の有無は移植後28日目に判定した。更にそのマウスのリンパ球を用い、リンパ球腫瘍混合培養 (MLTC) を施行した。MLTC の2日目の上

清中の IL-2, IL-4, INF- $\gamma$  を ELISA 法で測定した。

〔結果〕 腫瘍生着率は A 群 0% (0/5), B 群 60% (3/5), C 群 80% (4/5) であった。MLTC でのサイトカイン産生量は A 群, B 群の間に差はなかったが, C 群では低値であった。また A 群においては早期から抗腫瘍効果が観察された。

〔結語〕 CD40分子を刺激した DC は, より強力な抗腫瘍効果を示すと考えられる。

## 2. In vitro における HCV 感染実験

(消化器内科) 佐々木美希・  
鈴木智彦・山口尚子・徳重克年・  
山内克巳・林 直諒

C 型肝炎ウイルス (HCV) は慢性肝炎の主な原因 virus の1つであるが, その病因や複製, 癌化のメカニズムは今だに不明な点が多い。今回我々はこれらの点を明らかにするためまず in vitro における HCV 感染系の確立を試みた。これまでの報告から HCV はヒト肝細胞だけでなく末梢血中リンパ球にも存在し, HTLV-1に感染した CD4陽性 cell line (MT-1, MT-2) は HCV 易感染性であることが明らかであるため, ヒト lymphoma や MT-1, MT-2 cell line を用いて in